

自治会の主な活動

自治会では住民同士が繋がると共に誰もが安全・安心に暮らしていくためのさまざまな活動を行っています。

伝える



▲ホームページ（日蒔野6区）

- ・文書の回覧や掲示
- ・会報づくり
- ・自治会放送

など

守る



▲防災訓練（上西郷区）

- ・登下校時の見守り
- ・防犯灯の維持管理
- ・防災訓練

など

美しく



▲地域分別収集（桂区）

- ・全市環境美化運動
- ・分別収集
- ・草刈りや花壇整備

など

よりよく



▲組長会議（有弥の里1区）

- ・地域のルールづくり
- ・市への要望のとりまとめ
- ・地域の問題への対応

など

つながる



▲ふれあい運動会（大和2区）

- ・子ども会活動
- ・スポーツ大会
- ・餅つき大会

など

支え合う



▲いきいきサロン（宮司西区）

- ・健康づくり
- ・敬老会
- ・高齢者などの外出支援

など

自治会では住民同士が繋がると共に誰もが安全・安心に暮らしていくためのさまざまな活動を行っています。

自治会の役割って何なの？

自治会はさまざまな活動を通して、住民同士の結び付きを深めるといった大きな役割があります。自治会活動を通して、住民同士の交流を図ることは、お互いに顔の見える関係を築くことにも役立っています。東日本大震災や九州北部豪雨などの大規模災害が発生した際「地域・人とのつながり」の大切さが改めて見直されています。自治会の中で顔見知りが増え、住民同士の連帯感が高まることで、災害など、いざという時に助け合える関係づくりに役立ちます。これは、地域の防災力の強化にもつながります。

また、日々の暮らしの中で、個人や家庭だけでは対応が難しい、防犯や環境美化などの課題が出てくる場合があります。自治会ではこのような課題について、地域に住む人たちが共に考え、協力し合って解決に向けて取り組んでいくことで、より暮らしやすい地域をつくっていく役割も担っています。

自治会の1年



※これらは主な活動の一例です



自治会に加入したいときはどうしたらいいの？

住んでいる地域の自治会長や組長にお申し出ください。なお、お住まいの自治会や自治会長の連絡先が分からない場合は、市郷づくり支援課 ☎62・5017 にお問い合わせください。

自治会ってどんなことをしているの？

自治会とは、一定の地域に住む人たちが、自分たちの地域のことを考え、お互いに協力し合い、住みよい豊かな地域社会をつくるために自主的に組織する任意の団体です。2月末現在、市内には102の自治会があります。

自治会ってどんな組織？

皆さんは、自治会と聞いてどのようなイメージを持ちますか。「自治会って聞いたことはあるけど、実はよく分からない」という人も多いのではないのでしょうか。今回はそんな自治会の役割と、これからの自治会活動に必要なことについて考えていきます。

問い合わせ

市郷づくり支援課 ☎62・5017



人

と

人

との

つながり

をつくる

自治会活動



自治会活動から広がる地域の輪

私たちの暮らしと密接に関わっている自治会。自治会に加入することで、人と人とのつながりが生まれ、地域の輪が広がります。自治会に加入している人に、自治会活動に参加したきっかけや、自治会に入ってから良かったこと、楽しいことを聞きました。

四角区自治会 西さんご家族

転入を機に
四角区自治会へ加入

4年前、引っ越しを機に四角区自治会に加入しました。以前も自治会に加入していたので、



▲餅つき大会の後に話をしてくれた西さんご家族

転入後も加入するつもりでしたが、移り住んで、3日後くらいに、自治会長と役員のかたがたが家に来て、自治会について詳しく説明してくれたので、スムーズに入会できました。

子どもたちの思い出が
たくさんできる

自治会の行事などで印象に残っているのは、しめ縄づくりや門松づくり、餅つき大会などです。伝統行事を子どもたちにも体験させてあげられるのが親としてとてもうれしいです。都市部で育ち、伝統行事にあまり触れることがなかった私たちにしても新鮮で、どの行事も楽しんでいきます。また、子どもたちに行事の内容についていろいろ

ろと話してあげたいので、改めて由来などを調べる良いきっかけにもなっています。子どもたちにとって一番印象に残っているのは、11月に行われた文化祭や収穫祭でみたポン菓子のようなです。ポン菓子を作る時の爆発音に驚いたようで、たまに思い出してはその時の話をしています。

地域の温かさに
感謝

自治会に入ってから良かったと思うことは、多くの人とつながりができることです。自治会に入らなかつたら、近所の人たちと顔なじみになることもなかったと思うので、私たちは入って良かったと思います。「遊びに来てね」と声を掛けてくれる人も多く、温かく迎えてもらって感謝しています。また、

自治会長や地域の皆さんから「困ったことはないですか」など、声を掛けてもらえるのもとてもありがたいです。

自治会の活動に参加することで、子どもたちの成長にも良い影響を与えていると感じています。普段接することのないおじいちゃん、おばあちゃん世代と関わる事ができますし、さまざまな経験をさせてあげられるので、自治会に加入して良かったと思っています。



四角区自治会で毎年行われているしめ縄づくり▶

岡の2区自治会 待鳥時代さん

民生委員の誘いで
自治会活動に参加

2年前に福津に引っ越しをした時に自治会に加入しました。当時は、自治会活動に参加することはなく、隣近所でもあいさつを交わす人が数人いる程度でした。あるとき、民生委員が自宅を訪問してくれて「自治会の活動に参加してみませんか」と声を掛けてくれました。このことがきっかけで、自治会活動に参加するようになりました。今では、餅つき大会や健康体操などに参加したり、外出支援の車も利用したりしています。



▲地域の人との触れ合いが楽しいと語る待鳥さん



▲外出支援のおかげで買い物も便利になりました

地域の皆さんとの
交流が楽しい

自治会活動に参加して何より楽しいのは、地域の皆さんと顔を合わせて話ができることです。人との関わりが増えたことは、とても良かったと思います。また、地域に頼れる人がいるので、安心して暮らすことができます。それに、地域の人とおしゃべりするだけでも介護予防になりますし、暮らしていく上での健康づくりにもなります。自治会に入ってみると楽しいことがたくさんありますよ。

地域の見守りに欠かせない自治会活動

待鳥さんを自治会活動に誘った、岡の2区民生委員の芹野伊津美さんは「自治会活動に参加して住民同士のつながりができることで、自治会全体で地域の人を見守る体制ができるので、誰もが安心して生き生きと過ごすことができる」と語ります。民生委員は、地域の高齢者や子どもたち、障がいのある人などの見守りや相談・支援、地域福祉活動などを行っています。芹野さんによると、地域の見守りに欠かせない住民同士のつながりをつくる際、一人暮らしの人や転入してきた人は、なかなか自治会活動に参加しづらいので、できるだけ民生委員が声掛けを行っているそうです。

また、最近では、花見1区から4区までの4つの自治会で構成される花見総区で、子どもから高齢者まで地域で暮らす誰もが利用できる、地域のコミュニティ食堂の取り組みが始まりつつあります。このような、幅広い世代が集まる活動は、世代間の交流だけではなく、顔見知りの人が増えるので、地域の人を見守るきっかけづくりになります。

これらのように、自治会活動を通して地域の輪が広がっていくことは、さまざまな人たちが住み慣れた場所で安全・安心に暮らしていくことにつながります。



▲幅広い世代が集まる花見総区のコミュニティ食堂



これからの自治会活動をきえる

自治会活動への 関心

自治会は自治会活動を通して、人と人をつなぎ、私たちの生活にさまざまなものを提供しています。しかし、全国的に自治会活動への関心が低下しています。昨年7月に市が実施した市民意識調査では自治会の必要性について71%が「必要」と答えた一方「どちらともいえない」との回答が21%に上りました。

このような中、自治会活動を進めていくために必要なことを自治会長に聞きました。

誰でも気軽に参加できる 場づくりが必要

四角区自治会長の船越重利さんによると、四角区自治会では、自治会加入の有無に関わらず、行事への参加を呼び掛けているので「軽い気持ちで自治会の行事に参加してほしい」と語ります。さらに「自治会に入るのは、楽しいと感じた時な



▲行事には気軽に参加してほしいと語る船越さん

ど、何かきっかけがあった時でいい。『おいでおいで自治会』という雰囲気を作り、誰でも気軽に集えるような場づくりをしていくことが大切だと思う」と語りました。

お互いに支え合って 役員などの負担軽減を

5年前にUターンで戻ってきた、東町2区自治会長の小林真理さんは「周りの人たちの協力のおかげで自治会長の役割をやり遂げることができた」と語ります。30年以上地域を離れてい

幸せを育む つながりと感謝

このたび「自治会」を特集するにあたり、自治会長さんをはじめ、市民の皆さまから地域を想う温かなメッセージをいただきました。

「幸福学」研究の第一人者である慶大教授の前野隆司先生（8ページ参照）は「近所付き合いは幸福度を高める」「他者のための活動は幸福度を高める」といわれます。自治会は「自分自身と周りを幸せにする力」が高まる最も身近な場所の一つではないでしょうか。自治会は地域のかたがたが支え合い、感謝し合うことで、幸せを感じ、これをお裾分けできる多くのきっかけがあるのではと私は思います。市が実施した市民意識調査でも「つながりと感謝」が幸福度を高める要因であることが分かりました。

今回の特集を、皆さまの幸せとこれからの自治会のあり方を考えるきっかけにしたいだけとうれしいです。

福津市長 原崎智仁



ましたが、自治会長を経験することで、地域の輪に溶け込むこともできたといえます。小林さんは「役員を負担に感じる人もいると思うけれど、できる範囲でやればいい」と語ります。続けて「自治会活動では自分自身もそうしてもらったように、誰かに任せるのではなく、みんな



▲協力してくれた人への感謝を語る小林さん

で協力し合いながら、一人一人の負担が少なくなるようにすることが必要だと思う」と語りました。

自治会活動に参加して 地域の輪を広げよう

自治会への関心を高め、自治会活動を推進していくためには、船越さんや小林さんが語るように、誰もが参加しやすい環境をつくる必要があります。さまざまな自治会で多彩な取り組みが行われていますが、持続可能な自治会活動にしていくためには、まずは地域の中で活動への参加をお互いに呼び掛け合い、一緒に活動する仲間を増やしていくことが大切です。皆さんもお住まいの地域の自治会活動に参加して、地域の輪を広げてみませんか。

地域のつながりをつくって人生を楽しく

光陽台1区の自治会長で、福岡南地域づくり推進協議会の会長も務める石橋和義さんに、自治会活動の意義やこれからの自治会活動について聞きました。

人とのつながりが 日々の暮らしの安心感に

私は、地域の皆さんが楽しく、安心して暮らしているという実感が持てるような地域にしたいの思いで自治会運営に携わっています。人は一人では生きていけませんし、いつ何が起るかわかりません。自分が住んでいる地域で顔見知りをつくり、人とのつながりを持つことが、日々の暮らしの安心感につながります。その最も身近なつながりが自治会だと思います。

求められる 自治会運営の見直し

暮らしの安心感につながる自治会ですが、加入することで負担が増えると思っている人もい

われていると思いますが、これからは、自治会運営についても、地域の声を反映させ、行事などを取捨選択しながら、役員や地域の負担をなるべく少なくしていく必要があると思います。

自治会活動に 参加してみよう

自治会ではさまざまな楽しい行事を行っています。一度参加すると全部参加しないといけないのではないかと、という心配があるかもしれませんが、そのようなことはありません。参加したいと思う行事だけで構いません。また、役員になるのが大変だと思えば、先入観を持たずに、自治会に加入してほしい



▲自治会活動の楽しさを語る石橋さん

です。組長などの役員になることも、人間関係が広がり、地域での楽しみが増えると思います。役員の負担も、運営の見直しによって改善されていくものだと思います。今は時代も変わり、共働き世代が増えたり、定年退職の年齢が段階的に引き上げられたりする中、忙しくて自治会活動に参加しにくいのもよく分かります。ですが、仕事などから離れて地域に出てみることで、新しい楽しみが見つかるかもしれませんよ。まだ加入していない人も、加入はしているけど、普段はほとんど活動に参加していない人も、たまにでもいいので参加してみてください。地域でのつながりが、皆さんの人生を豊かにしてくれると思います。